



SORAK Development Agency

Registered NGO: No:8726

UEB Zone, Church Road -Mullago.P.o Box, 71883 Clock Tower -Kampala;Tel:+256 703515225

Mubende Office: Lusalira T/C, 16km from Mubende Town along Mubende -Fort portal Road



NPO法人グローバルブリッジネットワーク
Global Bridge Network

生理用布ナプキン作成および月経時の衛生管理ワークショップ 活動報告

2017年4月10日~11日

序論

布ナプキン作成トレーニングおよび生理に関する衛生管理のワークショップを 2017 年 4 月 10 日、11 日に開催した。

*Reusable Sanitary Pad は再利用可能な生理用ナプキンのことであり、ここでは「布ナプキン」とする

プロジェクトの目的

生徒、保護者、教員たちが自分たちで布ナプキンを作り、正しく月経時の衛生管理をできるようになること。

実施者とチームメンバー：

布ナプキン作成のファシリテーター：

- ・ Namutebi Haris (Community Centre Health Foundation (CCHF) in Mityana.

チームメンバー：

- ・ Hadijah Nakiruuta (SORAK プロジェクトマネージャー)
- ・ Muhumuza Adolf (SORAK プロジェクトオフィサー)
- ・ Kyeyune Robert (SORAK 音楽トレーナー)
- ・ Najjuko Jane (プレシヤス・チャイルド・ラーニングセンターの教師)

トレーニングの目的

トレーニング終了後、参加者が下記の事項を達成できていること。

- 布ナプキンを作れるようになる。
- 月経時の衛生管理についてきちんと理解し、同級生や家族に説明できる。
- 月経時の衛生管理について、それぞれの立場で役割と責任について理解する。



Plate 1: 男性教員も参加し、月経時の衛生管理について話し合った内容を発表している

青年期の女の子たちが抱える月経時の衛生管理に関する、子ども、教員、保護者のそれぞれの立場における役割と責任

子ども:月経の周期の把握、ナプキンの処分、使い捨て及び布ナプキンの管理と扱い方（使い捨てナプキンの処分、布ナプキンを洗って乾かす方法など）について正しい知識を得るなど。

保護者:子どもに生理用品を与える、生理について話したり、プライベートな場所を与えたりするような環境づくりなど。

教員:お手洗いを男女別にする、急に生理になった生徒にナプキンを提供できるように、学校に生理用品をストックするなど。

対象者の選抜・カテゴリーについて

本トレーニングでは生徒 30 名、教員 6 名、保護者 3 名が参加者として選抜された。理由は下記の通りである。

- ・SORAK が行ったベースライン調査の時に最も積極的だった女子生徒を重点的に選抜。
- ・ベテラン教員や男性教員と相談し、生活が特に厳しい環境下にいる生徒を選抜。
- ・男子生徒については、生徒について熟知しているベテラン教員に今回参加させるのに最も適していると思われる男子生徒を選抜。
- ・保護者の選抜の基準としては、対象校に通う子供を持つ親で、なおかつ布ナプキンセッションで使用できるミシンを所有している保護者を選抜した。

Table 1: 対象者のカテゴリー

学校名	女子生徒数	男子生徒数	教員数	保護者
ルワウナ小学校	07	03	02	01
聖ジョセフ・チバリング	07	03	02	01
プレシヤス・チャイルド・ラーニングセンター	07	03	02	01
合計	21	09	06	03

トレーニングを行うことで期待できる効果（付加価値）

参加者は月経時の衛生管理における技術・知識を学ぶ。月経時の管理をよりよくするだけでなく、今回のセッションで身につけた技術により、収入向上にも寄与できるようにする。対象校3校から参加した保護者をテラーとしてトレーニングすることで、今回の参加者が自分たちで販売用の布ナプキンを生産し、所得を生むようにする。特に、選抜された保護者であるテラーによる収入向上が期待されている。

手法

今回のトレーニングで期待する効果が得られるように、様々な手法を取った。例えば、英語が分からない生徒もいるため、英語と現地語の両方を用いて説明した。現地語を用いることで、参加した生徒たちは衛生管理における重要な内容について理解できた。また、グループディスカッション、質疑応答、グループでの発表、個人の経験を共有した。女の子の月経時の衛生管理を推進するために、生徒、教員、保護者などそれぞれの立場での役割と責任について考慮し、発表することができた。

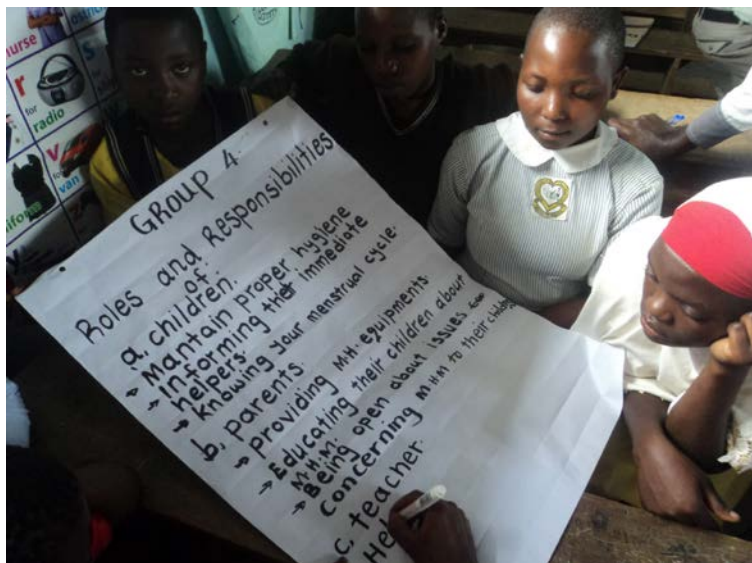


Plate 2: 月経時の衛生管理における、子どもの役割と責任についてグループで話し合っている



Plate 3: 布ナプキンの作り方を実演するトレーナー



Plate 4: 月経時の衛生管理における、保護者の役割と責任に関するグループディスカッション



Plate 5: 月経時の衛生管理におけるそれぞれの役割と責任について、グループで話し合った内容を発表



Plate 6: 月経時の衛生管理における男子の関わり方について発表する男子生徒



Plate 7: 月経時に女の子がどのように感じているか議題を提示する女子生徒



Plate 8: グループをリードする女子生徒

参加者は月経周期、生理による身体的変化、月経時に直面する個人の課題など、実際の経験に基づくそれぞれの見解を互いに共有した。プレゼンテーションの時、参加者は自分たちの月経周期を含むそれぞれの経験について話し合うことができた。

月経時に直面する課題

- 使用できる生理用ナプキンの材料不足.
- 生理痛.
- 月経時の衛生管理について限られた知識
- 腰痛
- 体の脱力感

ファシリテーションのプロセスと内容

1 日目：月経時の衛生管理ワークショップ（2017/4/10）

時間	内容	担当者
08:00am-09:00am	受付	SORAK
09:00am-9:20am	イントロダクション、トレーニングの目的、参加者が期待すること	Harris
9:20am-10:00am	月経についての理解	Harris
10:00am-10:30am	質疑応答	Harris
10:30am-11:00pm	休憩	SORAK
11:00pm-1:00pm	月経に関する衛生管理について、保護者、生徒、教員それぞれの役割と責任	グループワーク
1:00pm-2:00pm	昼食	
2:00pm-3:00pm	グループ毎のプレゼンテーション	グループワーク
3:00pm-5:00pm	月経に関する経験の共有	グループワーク
5:00pm-5:30pm	終了	SORAK

2 日目：布ナプキン作成トレーニング（2017/4/11）

時間	内容	担当者
08:00am-09:00am	受付	SORAK
09:00am-9:20am	1日目の振り返り	Harris
9:20am-10:00am	トレーニングの評価	Harris
10:00am-10:30am	質疑応答	Harris
10:30am-11:00pm	休憩	SORAK
11:00pm-1:00pm	布ナプキン作成の実践トレーニング	Florence & Harris
1:00pm-2:00pm	昼食	
2:00pm-3:00pm	布ナプキン作成の実践トレーニング	Florence & Harris
5:00pm-5:30pm	終了	SORAK

- 月経時の衛生管理の知識についてプレテスト

トレーニングをスタートした時点では、多くの参加者は月経の意味は理解していたが、月経周期のような重要なポイント（Key）については知らず、2日間のトレーニングで月経時の衛生管理の知識とスキルを身につけた。トレーニングでは対話型の学習法を用いた。最初に参加者は自分たちが今回のトレーニングについて期待すること、トレーニングから何を習得したいかを述べる機会を設けた。

- 参加者が期待したこと

- 布ナプキンの作り方を学ぶ。
- 月経に関する知識と正しい迷信*を学ぶ。
- 月経周期を有効に活用する方法を知る。

- 生理中に女の子が直面する身体的、精神的な苦痛や課題を共有する。

*迷信とは、例えば①生理中の女性は道路の交差点を渡ってはいけない、②男性の側に座ってはいけない。③食事に塩を入れてはいけない。④セーターなどでウエストを締めてはいけない。などがある。

参加者は布ナプキンの作り方、また月経に対して効果的な対処法について学びたいとの期待があった。参加者は実践的なトレーニングを含む幅広いアクティビティを通して、基本的な概念や専門用語を教わった。

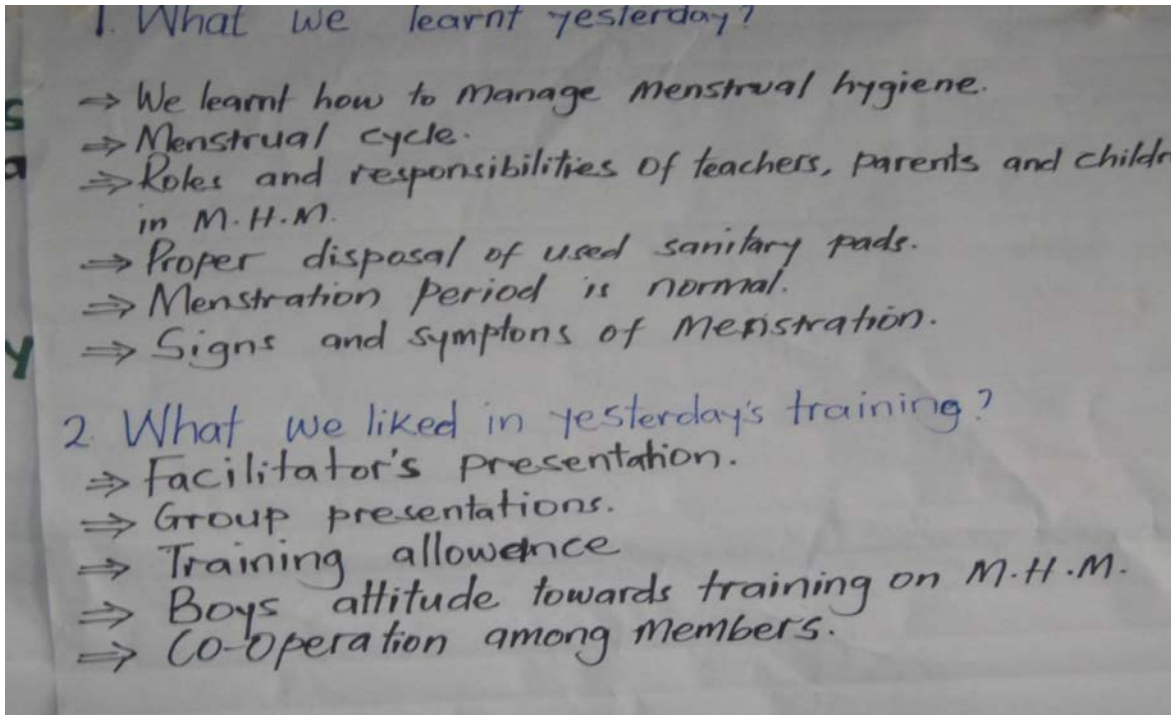


Plate 9:一日目のトレーニングで学んだことを二日目にレビュー

習得した重要なポイント

- 月経・生理についての理解
- 生理前の症状
- 月経周期についての理解
- 月経にまつわる迷信
- 月経の衛生管理について生徒、教員、保護者のそれぞれの役割
- 布ナプキンの作り方

グループ討議では以下について共有した。

- それぞれの役割と責任についての見解
- 学校や地域で月経時の衛生管理について教員、保護者が抱える課題

参加者全員が月経の衛生管理について理解できたところで、全員に布ナプキン作成に使う材料を配布した。



Plate 10: ミシンを所有するテラー兼保護者が布ナプキン作成のデモンストレーションに参加した



Plate 11: 材料を裁断している保護者



Plate 12: 生理用ナプキンの使い方を実演するトレーナー

トレーニングの結果と成果

- 参加者は月経時の衛生管理について、月経の周期、生理痛、のような月経における重要な概念について学び理解した。
- お互いの経験を共有したことで、参加者はそれぞれの立場で月経の衛生管理における役割と責任をより強く理解した。
- それぞれの対象校における課題を見出した。例えば、保護者が子どもに生理用品を提供できていない、学校のトイレが男女別になっておらず、さらに水不足など学校環境が整備されていないなど。
- 男子生徒の参加における効果は、最初は月経の衛生管理は女の子のみが向き合う問題と思い恥ずかしがっていたが、グループワークに参加し発表などをするうちに、女の子と生理について自由に話し合いができるようになり、参加させる意義があった。
- 月経時に子どもに必要な物を提供し、月経時の衛生管理をするのは学校の役目だと思っているため、生理用ナプキンを子どもに提供することを強固に拒絶する保護者もいた。しかし、子どもが学校にいる間においても、布ナプキンを与える責任は自分たちにもあることを保護者は自覚した。
- 男子生徒は月経時の衛生管理は女性だけの問題ではないことに気が付いた。今までは女の子を笑いものにしたり、変なあだ名をつけたりしていたが、トレーニングを受けた男子生徒は、月経は女性の誰もが経験する自然なプロセスだと認識した。
- 教員は学校において、例えば女子生徒に水や石鹸を配給する、洗面所を男子生徒や他とは別に設置するなど、学校で月経の衛生管理を徹底することが自分たちの役割と責任であると自覚した。

今後の提案

- 保護者は月経の衛生管理において主要なステークホルダー（関係者）である。なぜなら布ナプキン購入の資金を持っているのは保護者であり、継続的な月経の衛生管理のインシアティブを達成するには保護者との連携が必須である。
- 月経の偏見や悪いイメージを終結させるには、男性を継続的に関わらせることが重要。
- 月経の衛生管理を重要事項とし、学校でもこの取組みを促進するために保健に関する予算を増やし、女子生徒の緊急時にも対応できるよう石鹸やナプキンを常備する。
- 布ナプキン作成トレーニングを立ち上げるために、学校に材料を配給する。

参加者による評価結果

トレーニング終了後に、参加者に聞いたところ、以下について回答があった。

1. トレーナーの能力：

参加者全員がトレーニングの内容を大変よく理解できたとトレーナーを高く評価した。

2. 今回身につけた新たなスキルは今後利用するか？：

材料が手に入れば今回学んだことを必ず活かすと 39 人中 30 人が答えた。

3. コメントと提案：

この取組みを他の学校にも広げ、より多くの女の子たちも受講できるようにすることと 39 人中 30 人が答えた。

最後に、トレーニング終了後、参加者たちは月経の衛生管理の重要なポイントについて理解でき、今回のトレーニングは大変意義のあるものだった。